

南知多町立内海中学校だより

H28 2月号2

あけゆく空

平成 29 年 2 月 6 日 発行

～ あいさつと歌声と笑顔が輝く学校 ～

創立70周年記念企画クリアケース

節分を過ぎ、卒業式まで一ヶ月を切りました。1年生を中心にインフルエンザが流行していますが、残り少なくなってきた平成28年度の一日一日を大切に過ごしていきたいと思います。今号では、卒業式でも歌う本校の「校歌」について、改めて紹介します。

校歌に想う その2

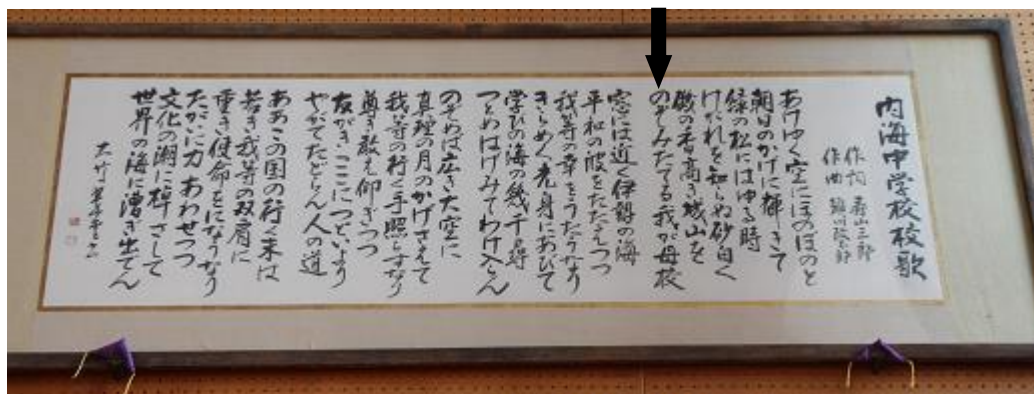
校長 内田幹男(昭和46年度卒)

昨年度の12月に、内海中学校だより『あけゆく空』号外で、校歌についての想いを語らせていただきました。主旨として、「校歌の三番も歌っていくことにします」というお伝えでした。その際、校歌一番の歌詞については、またの機会にとしました。今号を、その機会にさせていただきます。

さて、課題となっていたことは、一番の歌詞の最後の行、「のぞみてたてる我が母校」についてです。私の中学生の頃は「のぞみたてる」と歌っていたと記憶しています。また、体育館に恩師大竹友勝先生書の校歌(写真参照)も「のぞみたてる」で掲げられています。しかし、本校に赴任すると、生徒は「のぞみてたてる」と歌っていました。いつからどうしてそうなったのかを調べてみました。しかし、変わったと思われる時代の音楽科担当の先生や他の先生方にも尋ねても不明でした。今後、どちらの歌詞で歌い続けていこうか判断がつきかねましたが、赴任中には校長として決断をしたいと思いつつ今日に至っています。

最近ふと「卒業アルバムに校歌が載っているな」と思い出し、歌詞の変遷を紐解いてみました。卒業アルバムは、校長室に昭和27年度卒業生から保管されています。調べてみた結果は、昭和27年から41年度までは「のぞみてたてる」。昭和42年度に、「のぞみたてる」が初出されます。その後平成元年度まで、両者がほぼ隔年ごとに掲載されています。たぶんこれは、作成業者が1年ごとに交代し、歌詞の版はそれぞれが使い回していたからのようです。平成2から8年度までは、「のぞみたてる」。9、10年度は掲載がありませんでした。平成11年度からは「のぞみてたてる」で、古い版は使われておらず、毎年書き下ろしてあるので、そのとき歌っている歌詞とアルバムに載せた歌詞は同じだと思われます。したがって平成11年頃からは「のぞみてたてる」と歌っていたと推察されます。さて、校歌制定は昭和25年との記録が残っています。当時の歌詞の確認は取れていませんが、少なくとも昭和27年から15年間ほどは「のぞみてたてる」だったと思われることより、制定時は「のぞみてたてる」だったと考えられます。

以上の検証により、30年間ほど、「のぞみたてる」と歌ってきたと思われる時代の卒業生には申し訳ありませんが、制定時を尊重し、生徒たちには今後も「のぞみてたてる」を歌い続けていって欲しいと思います。



内海中学校校歌

作詞 壽山 三郎 作曲 須川政太郎

- | | | | |
|---|--------------------------------|---|---|
| 一 | あけゆく空にほのぼのと | 二 | 窓には近く伊勢の海 |
| | 朝日のかげに輝きて | | 平和の波をたたえつつ |
| | 緑の松にはゆる時 | | 我等の幸をうたうなり |
| | けがれを知らぬ砂白く | | きらめく光身にあびて |
| | 磯の香高き城山を | | 学びの海の幾千尋 <small>いくちひろ</small> |
| | のぞみてたてる我が母校 | | つとめはげみてわけ入らん |
| 三 | のぞめば広き大空に | 四 | ああこの国の行く末は |
| | 真理 <small>まこと</small> の月のかげさえて | | 若き我等の双肩に |
| | 我等の行く手照らすなり | | 重き使命をになうなり |
| | 尊き教え仰ぎつつ | | たがいに力あわせつつ |
| | 友がきここにつどいより | | 文化の潮 <small>さお</small> に棹 <small>こぎ</small> さして |
| | やがてたどらん人の道 | | 世界の海 <small>こぎ</small> に漕ぎ出でん |

【余話】

生徒としての現役時代には何気なく校歌を口ずさんでいても、大人になって歌詞の意味を改めて読み解くと想いが深まります。また、各校の校歌の作詞者、作曲者には、後世に名をはせられた方が多く、それを知るとさらに校歌に愛着が湧いてきます。

そこで、内海中学校歌の作詞者壽山三郎氏や作曲者須川政太郎氏に興味をもってみました。内海中では校歌の原本の保管は確認できず、インターネットで調べてみました。残念なことに、壽山三郎氏のことはよく分かりません。作曲者の須川政太郎氏については、いくつか記載がありました。

須川氏は、明治17年和歌山県新宮市に生まれ、東京音楽学校（東京藝術大学の前身）を卒業。鹿児島師範学校の音楽教員を務められ、当時の第七高等学校(鹿児島大学の前身)寮歌「北辰斜めに」を作曲されました。この歌は、今なお歌い継がれており、一高(東京大学の前身)の「嗚呼玉杯に」、三高(京都大学の前身)の「紅もゆる」と並び、三大寮歌として有名です。その後、京都師範学校、彦根高等女学校、半田高等女学校(半田高校の前身)の音楽教員を務められました。知多半島に赴任された縁で、内海中学校歌を作曲されたようです。

須川氏の妻カタさんは、大正ロマンを象徴するといわれる竹久夢二(詩人、画家)と出会いがあり、夢二の詩文「宵待草」のモデルとなっています。その後須川氏と結婚されました。美浜町に住む二女宅でなくなられたとありますので、これも内海中学校との縁の一つかも知れません。

「北辰斜めに」「宵待草」は、後に映画化されるほど、当時流行していたようです。校歌誕生の背景が、70年近くの時を超えて蘇り、心のもやもやが少し晴れた気がしました。



【竹久夢二：宵待草】

*本校の校歌について、お気づきの点があれば以下にご連絡ください。

(内海中学校 教頭 62-0204)